

在日米軍司令官にシュナイダー中將就任 *Lt. Gen. Schneider takes command of U.S. military in Japan*

February 5, 2019

By Gunnery Sgt. Derek Carlson

2月5日、横田基地で在日米軍及び第5空軍指揮権交代式が行われ、米軍人、自衛隊、日本の政府関係者および来賓の参列のもと、ジェリー・マルティネス中將に代わり、ケビン・C・シュナイダー中將が新司令官に就任した。

在日米軍指揮権交代の執行官はインド太平洋軍司令官フィル・デービッドソン米海軍大將が、第5空軍は太平洋空軍司令官チャールス・Q・ブラウン米空軍大將が務めた。

デービッドソン大將は、優れた2人のリーダーを称え、強固な日米同盟の関係を認めた。

「日米同盟の中心は、優秀な陸軍兵、海軍兵、空軍兵、海兵隊員、そして沿岸警備隊の将兵たちだ。彼らは敵対者を抑止し、その抑止が失敗した場合でも、我々の利益、生き方を守るために、戦い勝利する準備ができています」とデービッドソン大將は述べた。

ブラウン大將も、指揮権交代を行うにあたって2人の司令官に謝意と信頼の意を示した。

「今日は、第5空軍の指揮権を移譲し、2人の優秀なリーダーを称える、太平洋空軍にとって特別な日だ。私は彼らを個人的に20年以上も知っている。司令官として空兵たちを率いる任命を得るのは身の引き締まる責任だ。また、今日の式典は我々将兵の偉大な国家への奉仕、犠牲、献身を思い起こすものでもある」とブラウン大佐は述べた。

54,000人の在日米軍のメンバーに対する最後の退任演説で、マルティネス中將は、二国間・多国間の演習や日本政府との密接な調整を通して、地域の安全保障と日米同盟の強化を図る在日米軍の将兵の献身的な働きを振り返った。そして、日本の人々に対して心からのメッセージを述べた。

「ここを去る時、私は司令官であったことを誇りに思うだろう。私が真に誇りに思うのは、そして私が世界の全ての人に伝えて行きたいのは、日本という偉大な国に住んでいたということだ」と勤続33年を経て退役するマルティネス中將は述べた。

シュナイダー中將は、インド太平洋軍の参謀総長を務めた経験を持つ。3,800時間の飛行経験を有し、また不朽の自由作戦、イラクの自由作戦で530時間の戦闘飛行を行った最上級操縦士である。

日本がはじめてではないシュナイダー中將は、海軍の将校だった父親の関係で横須賀で幼少期を過ごした経験を振り返った。

「子供の頃の最初の思い出の一部は、日本に住んでいたこと。長井という場所に住んでいて、地元の村を走り回ったり、観光地を見たり、家族と旅行したり、素晴らしい文化に触れていた」

シュナイダー中將はのちに、三沢基地でF-16を飛行する若手のキャプテンとして2度目の来日を果たし、その時のパートナーである航空自衛隊との親密な関係を振り返った。

シュナイダー中將は続けて、日米同盟の重要性、訓練と即応力、そして進化するこの地域の安全保障の課題について述べた。

「この地域における平和と安全への明確な脅威のため、脅威、危機または人道的災害に瞬時に対応するための最高レベルの即応態勢を維持しなくてはならない。我々の陸軍、海軍、空軍兵、海兵隊、そして沿岸警備隊の将兵は侵略行為を抑止し、日本防衛を支援し、この地域での他国とのパートナーシップの強化を助け、地域の平和と安全を促進するために必須の前方展開能力を米国へ与える」とシュナイダー中將は述べた。

60年以上に渡り、日米同盟はインド太平洋における安定と安全の礎であり、今後もその役割を果たし続けるだろう。

